

平成18年度 自己評価表 (結果)

| | | | | |
|------|----|-------------|-----|---------|
| 学校番号 | 42 | 静岡県立静岡東高等学校 | 記載者 | 自己評価委員会 |
|------|----|-------------|-----|---------|

| | | | | | | |
|----------|--|--|----|--------|---|--------------------------|
| 学校教育目標 | 人間として「自覚と責任」ある生き方ができる自律の心を育て、進路希望達成のため学習活動充実を図り、生徒一人ひとりの活力・特性を最大限に伸ばすことを目指す。 | [総合評価] (評価者: 校長) | | | | |
| 教育方針 | 創立以来、「自分に負けるな」を生徒の実行目標とし、学業と人間形成の両面において、生徒一人ひとりを大切にすることを教育方針としている。 | 本校の一年間の教育活動を振り返り評価してみると、評価項目全体ではA、B評価が9割を超えることから、概ね目標が達成できたと言える。特に高く評価できることは教職員が教育方針に沿って誠実な指導を実施し、生徒一人ひとりが様々な活動に前向きに取り組んでいることである。今年度も数多くの部活が全国大会や県大会の上位に進出する一方、面接等による支援が一層手厚く実施され、生徒達は部活動と学習活動の高いレベルでの両立に取り組むことができた。一方、自転車通学マナーの改善等、人間としての「自覚と責任」ある生き方への指導については粘り強く指導を継続する必要があると言える。 | | | | |
| 今年度の重点目標 | | 担当 | 評価 | 評価者 | 成果と課題 | 次年度の取り組み |
| 1 | 面接を通じた総合的個別指導を充実させ、学習と部活動の両立や学校生活適応などへの支援を行う。 | 教職員 | B | 教職員・生徒 | 個別面接指導が様々な場面で実施され成果があがっている。面接時間確保が課題である。 | 継続実施する。 |
| 2 | 東高としての授業のあり方を研究し、授業改善に努める。 | 教職員 | B | 教職員・生徒 | 生徒への授業アンケートを実施し、教科で問題点について検討しながら授業改善に努めた。 | 授業アンケートを継続実施し、授業改善につなげる。 |
| 3 | 先進校へ職員を派遣し、より一層の進路指導体制充実を図る。 | 学力向上委員会 | B | 教職員 | 先進校の様子がわかり参考となった。それをどう本校に生かすかを更に検討する。 | 継続して職員を派遣する。 |

| | | | | | | | | |
|-----------|---------------------------------|---|--|-------------------------------|----------|---------------------------------------|--|---|
| [共通] | | | | | | | | |
| 領域 | ねらい | 評価項目 | 達成目標 | 担当 | 評価 | 評価者 | 成果と課題 | 次年度の取り組み |
| 学校経営 | 適切な教育目標の設定 | 生徒・学校・地域社会の実態に即した教育目標を設定する。 | 本校の使命、教育理念を意識して教育活動を実践する。 | 運営委員会 | A | 運営委員会 | 生徒実行目標、教育方針を踏まえた教育活動が実践された。 | 一人ひとりの生徒を大切に、という点を一層意識して取り組む。 |
| | 開かれた学校づくりの推進 | 教育活動の内容等について保護者や地域等への情報発信に努める。 | ①学校行事等への保護者の積極的な参加を促す。 ②本校の最新情報を提供するためにHPを12回更新する。 | ①総務課 ②情報室 | A | ①総務課 ②情報室 | ①文化祭をはじめ各行事について目標設定できた。 ②担当者が迅速に更新できた。 | ①可能な行事等については継続実践する。 ②担当者が編集しやすいよう大枠を変更する。 |
| | | 学校が有する教育機能や施設等の開放を通して、生涯学習センターとしての機能の充実を図るとともに、地域の人材の活用を図る。 | ①体育館・グラウンド等の施設を昨年度以上開放する。 ②学校評議員制度を活用し、有益な助言を得て教育活動に役立てる。 | ①学校開放委員会 ②総務課 | B | ①学校開放委員会 ②総務課 | ①前期は昨年度以上の利用があったが、後期1月までの利用がやや昨年度同期を下回った。 ②年2回の実施で有益な助言を得た。 | ①要望があれば積極的に施設を開放する。 ②継続実施する。 |
| | 事務の適切な執行 | 表簿等の管理を厳正に行うとともに、事務の効率化、セキュリティの徹底を図る。 | 情報管理についての研修会を通し職員の意識を向上させる。 | 事務部 情報室 | B | 事務部 情報室 | 研修会を開けなかったが案内文書を多数発行し、注意を喚起した。 | 研修会と同等の効果のある方法を検討する。 |
| | 組織的・機能的な学校運営 | 各分掌間の連携を図り、教職員の共通理解に基づいた教育活動を行う。 | 運営委員会で様々な視点から十分な議論を行う。 | 運営委員会 | A | 運営委員会 | 耐震工事に伴う対応などを検討することができた。 | 次年度まで実施される耐震工事に組織的・計画的に対応したい。 |
| 教育課程 | 生徒の実態等を踏まえた特色ある教育課程の編成・実施 | 教育目標、重点目標及び生徒の実態等を踏まえた教育課程を編成・実施するとともに、点検・改善に努める。 | 全学年、教科、科目のシラバスを作成し、年度末に再検討する。 | 教務課、各教科 | A | 教務課 | 全教科・科目の学習方法・シラバスを掲載した冊子(学習の道しるべ)を学年別に作成した。 | 引き続き、次年度以降も作成する。 |
| | | 3年間を見通した指導プログラムに基づき、各時期に合わせた学習支援を実施する。 | 3年間の指導プログラムを作成し、計画に従って学習指導を実施し、かつ問題点を検討する。 | 学力向上委員会 学年部、教務課 生徒課、進路課 | B | 教職員 | プログラムに基づいて学習指導が実施され、また3年間を見通しての指導成果が最終学年に現れている。 | 問題点の検討を十分に行った上、継続実施する。 |
| | 高大連携事業の推進 | 学習機会を求める生徒に大学の講義を受講させ、本校の単位を認定する(学校設定科目「専門教養講座」)。 | 生徒が年間25人以上受講するよう指導する。 | 研修課 | A | 研修課 | 前期11名、後期14名の生徒が大学講義を受講した。 | 受講者全員が単位認定されるよう指導する。 |
| 教科指導 | 基礎・基本の確実な定着と個性を生かす教育の充実 | 授業改善の推進を図る。 | 生徒による授業評価を行い授業の改善に努める。 | 各教科 | B | 教員・生徒 | 授業アンケートを実施し授業改善への有益な視点を得た。 | 授業改善に努めていく。 |
| | | 個に応じたきめ細かな指導を行う。 | 数学・英語等で習熟度別授業を展開し学力を向上させる。 | 学力向上委員会 | A | 学力向上委員会 | 2年理系数学、2・3年文系英語で習熟度別授業を実施した。教材を工夫することで効果的な学習を実施できた。 | 個々のレベルに応じた指導を充実させる。 |
| | | 週テストを活用し数学・英語の基礎学力の確実な定着を図る。 | ①数学 60%以上得点できるようにする。 ②英語 60%以上得点できるようにする。 | 数学科 英語科 | ①B ②A | 数学科 英語科 | ①追テスト指導により概ね達成できた。 ②達成できた(3年生は問題が難しかったが到達度は十分と考えられる) | 生徒のテストに取り組む意識を更に高めたい。 |
| | | 週末課題を活用し基礎・基本の定着を図る。 | 週末課題の提出指導を徹底する。 | 担当教科 学年部 | B | 担当教科 | 提出状況は概ね良好で学習指導にも有効だった。 | 指導を継続する。 |
| 総合的な学習の時間 | 自ら学び、自ら考え、課題解決に主体的に取り組む資質・能力の育成 | 指導体制を整備し、計画的に推進する。 | 東陵セミナーを計画的に実行する。 | 総合委員会 | A | 総合委員会 | 計画に従って実行できている。 | 更に内容を精査し充実させたい。 |
| | 自ら学び、自ら考え、課題解決に主体的に取り組む資質・能力の育成 | 教科との関連付けに留意し、体験的な活動等による学習の充実を図る。 | 高原教室、保育体験活動から理科や家庭科の学習をより深く理解し、企画力・発表力を養う。 | 総合委員会 理科、家庭科 | B | 総合委員会 | 委員会としては学年活動との連携が取れていたが、教科との連携は十分でなかった。教科では状況に対応した問題解決方法を探る機会を得た。 | 良い機会であると捉え、連携を保って指導にあたりたい。 |
| | 目標を踏まえた学習活動を実施し、指導と一体化した評価を行う。 | 活動ごとに分析シートを生徒に提出させ、学習の定着を図り、適正な評価を行い、効果的な指導を目指す。 | 総合委員会 | B | 総合委員会 | 1年次の指導をHR担任が行うようになったため、分析シートは使用しなかった。 | 今後とも担任が中心となる指導を続けたい。 | |
| 特別活動 | 社会性及び自主的、実践的な態度の育成 | 教育目標を踏まえ、創意工夫を凝らしたホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の推進を図る。 | 各種行事、生徒会活動への積極的な参加を通じて本校生徒としての自覚と帰属意識の高揚を図り、自覚と責任ある行動に基づきリーダーシップの取れる人材を育成する。 | 学年部、生徒課 | B | 教職員 | 生徒は学校行事・学年行事に積極的に参加した。行事への取組を通じてリーダーが育成されつつある。 | 引き続き生徒の主体的取組を支援していく。 |
| | | 文化教室の充実を図り文化的素養を高める。 | 図書課 | A | 生徒 | 生徒の84%が興味をもって京劇を鑑賞した。 | 実施前に作品についての情報提供を行うなどして生徒の関心を高める。 | |
| | | 直接的な体験活動の充実を図る。 | 修学旅行での直接的体験活動の充実を図る。 | 2年部 | A | 生徒 | 参加者全員が全ての研修に参加できた。 | コース毎の研修内容が固定化し新鮮さが無くなりつつあるので、業者との情報交換をより密にする。 |
| 部活動 | 生徒の自主的・自発的な活動による学校生活の充実 | 指導方法等について工夫・改善を図る。 | 面接指導および試験前部活動自粛期間設定等により、学習との両立を支援する。 | 生徒課、学年部 | B | 教職員 | 面接支援が成果をあげている。試験前部活動自粛について一層の理解を図りたい。 | 部活動と学習の両立を継続支援する。 |

| | | | | | | | | |
|----------|-------------------------------|--|--|------------|---|------------|--|---|
| 進路指導 | 望ましい勤労観・職業観の育成 | 就業に関わる体験的活動や計画的・体系的なキャリア教育を推進する。 | 東陵セミナー・社会専門講座を活用し、職業研究を充実させる。 | 進路課 | B | 進路課 | LHR、東セミ、社会専門講座を活用し指導が行えた。 | 職業レポート等の活動を追加し、実践的な職業研究を充実させる。 |
| | 主体的に進路を選択し、自己実現を図ることができる能力の育成 | 進路希望達成のための指導の充実を図る。 | 国公立大学の合格者数を卒業生数の40%以上にする。 | 進路課 3年部 | A | 進路課 3年部 | 前期合格発表段階で既に41%に達した(130人合格)。 | 今年度と同様に指導の充実を図る。 |
| | 社会専門講座の充実 | 社会人講師の専門的講義を通して学習意欲の喚起と進路意識の高揚を図る。 | 参加生徒の70%以上が興味を持つよう企画する。 | 研修課 | A | 研修課、生徒 | 8割以上の生徒が講義内容を興味深く感じた。 | 多数の生徒が興味を持つ講座を企画する。 |
| 保健指導 | 心身の健康の保持・増進 | 病予防や朝食摂取等の健康増進のための取組を推進する。 | 保健便りを毎月発行して健康についての意識を高める。 | 保健課 | B | 保健課 | 保健委員が中心となり、しっかり活動できた。 | 委員会活動を継続して指導していきたい。 |
| | | 薬物乱用・喫煙・飲酒等の身体的影響に関する指導の充実を図る。 | 薬物講座を年1回実施し、薬物乱用の恐ろしさを生徒に認識させる。 | 生徒課 | B | 生徒課、生徒 | 生徒へのアンケート未実施。行事変更に伴い12月に実施。生徒は興味を持って講義を聞いていた。 | 前期・夏休み前に実施が適当であり、その方向で実施したい。 |
| 図書指導 | 読書指導の推進 | 朝読書等、読書指導の充実を図る。 | 朝読書で生徒1人が月に1冊、年間10冊読了する。 | 図書課 | B | 図書課 | 60%の生徒が10冊以上読了、平均読書冊数13.9冊。 | 導入時の指導方法を工夫する。 |
| | 図書館活用の促進 | 図書館を活用した学習活動の充実を図る。 | 年間2500冊以上を貸し出す。 | 図書課 | A | 図書課 | 1月末までに2,948冊を貸出。 | 小論文指導・教科指導との連携を図り、読書の機会を増やす。 |
| 教職員の資質向上 | 教職員の資質能力の向上 | 教職員の人権意識の高揚と、教育公務員としての倫理観・使命感の向上を図る。 | 人権教育に関する研修会を実施する。 | 研修課 | B | 教職員 | カウンセリングマインドについての研修は生徒の人権を尊重する姿勢の育成にも資するものだった。 | 人権教育に関する資料配布等にも努めていきたい。 |
| | | 校内研修の充実を図る。 | 学校重点目標について研修会を開き教職員間の理解を深める。 | 研修課 | B | 教職員 | 「面接を通じた総合的個別指導の充実」および「長期欠席者への対応」の重点目標を達成するため7月に研修会を実施した。 | 次年度も学校重点目標等についての研修会を開き、教職員の理解を深める。 |
| | | 各種研修への参加と研修成果の校内での活用を図る。 | 研修成果を教職員に還元するために報告会等を行う。 | 研修課 | A | 研修課 | 回覧で各研修への参加を呼びかけた。中高交流、先進校訪問への報告会を職員会議で実施した。 | 次年度も教職員の各種研修への活発な参加と成果の還元を図る。 |
| 教育相談 | 相談体制の充実 | 相談しやすい環境づくりを推進する。 | 「相談室だより」を発行して広報活動に努める。相談員を交代配置することで利用しやすい体制を整える。 | 教育相談室 | B | 教育相談室 | 相談員の常駐体制を作った。また生徒・職員に向けて広報誌を定期的に発行した。 | 「相談室だより」、「考える」の発行を継続するとともに、保護者向けの広報活動を行う。 |
| 厚福生利 | 教職員の健康の保持・増進 | 教職員の心身の健康の保持・増進を支援する。 | 職員安全衛生委員会が働きやすい職場環境について議論・提言する。 | 職員安全衛生委員会 | B | 職員安全衛生委員会 | アンケートの意見を参考に改善を行った。AEDの講習会も実施できた。 | 耐震工事が完了したところで検討したい。 |
| 管危理機 | 危機管理に関する校内体制の整備 | 学校や地域の状況を踏まえた学校独自の危機管理マニュアルに基づく実践的な訓練により学校の危機対応能力の向上を図る。 | 不審者対応マニュアルの研修会を通して職員の意識を向上させる。 | 生徒課 | C | 生徒課 | 不審者対応研修会は開催しなかったが、マニュアルの周知を図った。 | 不審者対応マニュアルは本年度と同様にする。緊急犯罪情報はその都度報告する。 |
| 事務部運営 | 教育活動の支援 | 教務部との連携を図り、教育活動を支援する。 | 教務主任と月1回以上打ち合わせを行う。 | 事務部 | B | 事務部 | 概ね達成できた。 | 定期的に打ち合わせ実施する。 |
| | 親切・丁寧な対応の徹底 | 生徒及び来訪者等に対して親切・丁寧な対応を行う。 | 80%以上の人が親切・丁寧と感じるよう努める。 | 事務部 | B | 教職員・PTA役員 | 目標についてA(十分達成)と感じた人が41%、B(概ね達成)が57%であった。 | 引き続き親切・丁寧な対応を行う。 |
| | 学校事務の効率化 | 常に創意・工夫した事務改善を図る。 | 事務改善を検討し、改善を図る。 | 事務部 | B | 事務部 | 概ね達成できた。 | 改善検討事項を実施する。 |
| | 学校経営予算に基づく予算の編成及び執行 | 当該年度の重点的取組を推進するための予算編成を行うとともに、計画的に予算を執行する。 | 四半期毎の執行を計画的に行う。 | 事務部 | B | 事務部 | 概ね達成できた。 | 計画的に予算を執行する。 |
| | 教育環境の整備 | 施設・設備の整備充実を図る。 | 80%以上の人が安全・快適と感じる環境・施設整備を行う。 | 事務部 | B | 事務部 | 目標についてA(十分達成)と感じた人が16%、B(概ね達成)が66%であった。 | 耐震工事とともに環境整備を進めていく。 |

【課程】
【教育課題】

| 領域 | ねらい | 評価項目 | 達成目標 | 担当 | 評価 | 評価者 | 成果と課題 | 次年度の取り組み |
|--------|-------------------------|--|--|---------------|----------|---------------|--|---|
| 情報教育 | 情報化に対応できる能力の育成 | 情報活用能力の育成を図る。 | 全ての生徒が①表計算ソフトを用いたデータ処理ができる。②ホームページを用いて情報発信ができるよう指導する。 | 情報(教科) | B | 情報科 | 時間をかけ指導した。定着には実生活での活用度もかかわっているようである。 | 耐震工事のため難しいかもしれないが、基本的には今年度と同様に実施したい。 |
| | | 情報モラルの育成を図る。 | 情報の授業において情報モラルの理解を図る。 | 情報(教科) | C | 情報科 | 授業で扱う時間があまりなく、思うような成果が得られなかった。 | 次年度は授業の中で情報モラルを重点的に扱いたい。 |
| 国際理解教育 | 異文化理解の推進とコミュニケーション能力の育成 | 多様な文化、歴史等を学習する機会の充実を図る。 | 授業や社会専門講座等を通じ異文化理解の一層の促進を図る。 | 英語科、地歴公民科、研修課 | A | 英語科、地歴公民科、研修課 | 社会専門講座で「森林利用の国際比較」など国際理解のテーマを設けた。また授業や留学生訪問など異文化理解の機会充実を図った。 | 授業や社会専門講座、教科間の連携等を通じ指導を継続したい。 |
| | | 国際交流体験の機会を充実するとともに語学教育の充実を図る。 | スピーチコンテスト・国際理解行事、英検等に積極的に挑戦させる。 | 英語科 | A | 英語科 | スピーチコンテスト・国際理解キャンプ・英検等に積極的に参加できた。 | 生徒への広報を積極的に行い、来年も参加を促していきたい。 |
| 教人育権 | 確かな人権感覚の育成 | 教科・特別活動等において、計画的に人権教育を推進する。 | 人権教育に関する研修会を実施する。 | 研修課 | C | 研修課 | 独立した研修会を実施しなかったが、職員会議や回覧等で人権についての資料を配布・説明した。 | 教科・特別活動における人権教育の手法について紹介する。 |
| 環境教育 | 自然を大切にすると実践的な態度の育成 | 体験的な活動を通じた環境教育を推進する。 | ①勤労体験学習を通じ環境美化の重要性を認識する(全生徒)。 ②高原教室を通じ自然を尊ぶ姿勢を養う(1年)。 | ①保健課 ②1年部 | ①B ②A | ①教職員 ②1年部 | ①耐震工事の引越しを含め計画通り実施できた。 ②自然環境を保護する活動について、99%の生徒が前向きに捉えている。 | ①毎日の清掃活動・ゴミ分別も指導していきたい。 ②ハイキングコースを工夫し時間的ゆとりを持たせたい。 |
| 教福育社 | 他人を思いやる心など豊かな人間性の育成 | 高齢者や障害のある人などへの理解を深める体験活動を推進する。 | 保育体験実習を通して幼児をいたわる気持ちを育む。 | 1年部 | B | 1年部 | 8割以上の生徒が達成できた。 | 本年度の形態を踏襲していきたい。 |
| 防災教育 | 防災意識及び防災対応能力の育成 | 大規模地震等に対する防災能力の向上を図るため、実践的な防災訓練を実施する。 | 防災訓練を実施する際、東海地震に対する行動基準の周知を図る。 | 総務課 | A | 総務課 | 避難訓練を中心とする防災訓練を2回実施した。またそれに先立って巨大地震の際の行動基準についてクラスごとに周知を図った。 | 実地訓練の実施で、より実践的な内容を目指す。 |
| | | 高校生が地域防災の担い手としての役割を果たせるよう、地域と連携しながら防災体制の充実を図る。 | 20%以上の生徒が地域防災訓練に参加するよう指導する。 | 総務課 | A | 総務課 | 52%の生徒が参加した。 | 継続実施する。 |

※すべてA～Dの評価の基準を記入する
A：十分目標を達成することができた
B：おおむね目標を達成することができた

C：あまり目標を達成することができなかった
D：ほとんど目標を達成することができなかった